

レコード軽術 4.1

No. 50

Jonglen

ティル・ジョンレン

Til

瀬戸際のスリルと闇の恐怖の
もたらす効果はあるか
いつまで続くか



[特集]

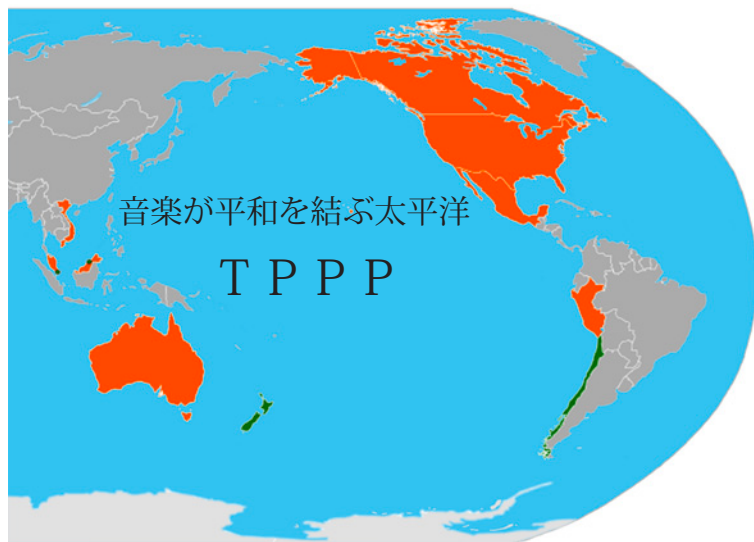
この 楽団はどうする

古田秀和「之も楽しむ者に如かず」



どじ込み
今月の資源保護

環太平洋プログラム連携協定



赤は加盟国、緑は交渉中の国

環太平洋プログラム連携協定（Trans-Pacific Program Partnership）に加盟すると、音楽会のプログラムが統一されるので、聴きたい曲を行ってみたい国の好きな演奏家で楽しめるようになります。

旅費をタダにできるよう交渉中。

文化省

中国、やがて GDP も世界一に



この現実に向き合わないと、日本は孤立と軽蔑の対象に貶められます

A P P を発展させよう

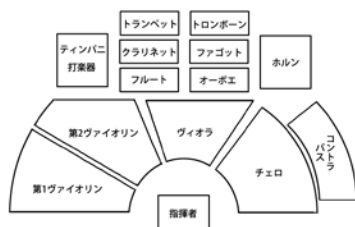
東アジア演奏家連携協定（ASIA Players Partnership）は
国同士の問題から偏見やわだかまりを芸術の力で乗り越えようというアジア系の演奏家の集まりです。



特集

この楽団をどうする

《大阪フィルハーモニー》



大阪の橋桁市長が上京し、東京都交響楽団の演奏会に顔を出した。橋桁市長は「オーケストラなんてインテリぶった人が好きなだけ」「大阪にはお笑いが似合う」などと発言し、市が補助する大阪フィルの予算をバツサリ削減する方針を打ち出したりしている。もしかしたら市長にとってオーケストラを聞くのは生まれて初めてかもしれない、それも自治体が補助するオケとしてはトップにある東京都交響楽団を聴くのだから、どんな感想が出てくるか音楽ファンでなくても興味津々である。終演後にインタビューの時間をいただいた。

—— 後ろの方でお姿を拝見しておりましたが、眠くはならなかったようですね。

橋当然ですよ、もし居眠りをしているところを写真に撮られたら、どう叩かれるか、そりゃ

必死ですよ。危ない時もあつたけれど、大きな音で我に帰れた。もうごめんです。二度と来ません。

—— 東京都交響楽団が受けている補助金は大阪フィルのほぼ10倍です。大阪フィルは貧しいから音も貧しいかと言ったら大間違ひ、東京都交響楽団にはない伝統とも言える響きがあります。それがなくなつたら損失です。

橋オケの音の違いを聴き分ける人なんて、納税者のほんの一握り。そんな人のために税金を使えません。

—— お笑いならいいと。

橋 僕のいうのはね、自助努力なんです。いいと思つてゐるなら自分たちで客を呼びなさいよということ。文化の名のもと、お高ぶつて結果甘えている連中が嫌いなんだ。

—— クラシックが好きな人たちにもお笑いが

大好きという人、たくさんいますよ。人種を分けるというのはどうも。

橋 あまり言いたくはないけれど、あなたも知つてゐるように、僕、生まれが悪いんですよ。クラシックは雑音にしか聞こえないって、そんな人ばかりに囲まれて育つた。

—— クラシックが苦手なのは多分前の都知事の意地張さんも同じだと思ひますが。あの人、生まれ悪いですか？

橋 いやいや、あつち側にもそんな人はいるかもしれないけど、僕らにとつては雑音は雑音。

—— 雑音とおっしゃいますが、食わず嫌ひでは。自ら生まれを差別することないじゃないですか。CMや劇伴にもクラシックがたくさん使われてますよ。

橋 残念ながら僕はそんなの、気にしてませんねえ。

——作る方も聴く方もあった方がいいと感じるから、そういうところに音楽があるんじゃないですか。

橋じゃあ、今度は少しは意識して聞くことにしますか。

——味わえる分野が広がることはいいじゃないですか。どんなものでもいきなり気に入るとは限りません。何かのきっかけで好きになつてのめり込むこともあります。だれでもそんな風に守備範囲を広げつつ成長するのだと思っていますが。馴染みのない文化に触れる機会に手を貸すのも行政の役割です。大阪にはザ・シンフォニーホールのようなコンサート専用ホールが東京に先駆けて作られましたし、フェスティバルホールも新装オープンします。それらが無駄だと思われないように合意形成するのが首長のセンスじゃないですか。

お笑い以外の文化も消さなかった市長として市政の歴史に残ることを期待しますよ。

橋そういう見方もあるのかとわかりました。僕の方針は変わりませんが、摩擦は避けていきたいと思っています。

世の中、クラシック音楽が好きな人ばかりではないから、関心のなさそうな人に押しつけることはしないようにしている。しかし、関心がないどころか反感とも言える認識を持つている人と話すのは正直言って疲れる。話しているうちに自分が段々イライラしてくるのがわかった。お説教した所で聞く耳を持たない人にはいい結果は期待できない。これが普通なのさ、と自分に言い聞かせ、気分転換として携帯音楽プレーヤーからのモーツァルトに耳を傾けた。



古田秀和

Hidekazu FURUTA

之も楽しむ者に如かず

● シューベルト

弦楽四重奏曲 第12番 「四重奏断章」

桜の季節になると必ず通る小道がある。歩いて十分ほどの間に桜の木は数本ほど。私は木について詳しくないので良くわからないが、ソメイヨシノではない山桜の一種なのだろうか、華やかさにはちよつと欠けるかもしれないが、それぞれに美しい花を咲かせている。

一番大きな木のそばには、近くの農家の人が残したのだろうか、作りかけの東屋といったらよいが、物置を改造しようとして中断したような小屋が建っている。そこには腰を下ろす場所もあつてそこから見渡す風景が素晴らしい。コンクリートの近代的な施設とは正反対の、朽ち果てた誰が作ったかわからない、

それも未完成な建物なのに、なぜか入るとホッとしたような気分になる。小屋を作った人はどんなものを建てたかったのだろうか、今どうしているのか、年々朽ち果てていくのがわびしい。

人々は生きている間にたくさんものを残す。いくつかは創作物として作者亡き後も多くの人から賞賛され続ける。しかし、その数は人々の努力と試行錯誤の跡——私の好きなこの小屋も含めてだが——のほんの一部にすぎない。運良く生き延びることができても、——滅び去った文明の跡を見るがよい——人々の営みの狭間でどういう運命をたどるかにはわからない。人間の創造物とはそもそも儚いもの

のなのかもしれない。しかし、努力と試行錯誤があった事実は容易に消し去ることはできないし、それすら失われたら進歩の跡をたどれなくなり、向上の手がかりを失う。

一八二〇年頃、シューベルトはたくさん曲を書きかけで放棄した。シューベルトは作曲家として歌曲ばかりではなく交響曲の大作にも取りかかっていたと願っていたが、それをなすには自身の枠をはみ出さねばと、悩んだ末のことだったのだろう。



シューベルト
弦楽四重奏曲 第12番
「四重奏断章」
シューベルト弦楽四重奏団

シューベルトの弦楽四重奏曲で第12番とされるハ短調の曲は第一楽章は書き終えてあるものの、第二楽章はスケッチのみであり、始めの部分で終わっている。それゆえ《四重奏断章》と今日呼ばれている。全楽章の完成には至らなかったが、新境地を切り開かんとするシューベルトの気迫が溢れている。

室内楽の至高の作品と讃えられているベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲が作曲される前、若きもう一人の天才がこのような作品を残していたとは驚く。創造の行為は未完におわっても、結果が思わしくなくとも、忘れられないようにしたい。もし「負の遺産」と呼ばれるものになっても、その陰にはたとえ止むに止まれずした結果であろうとも、無名の人たちの涙ぐましい努力があるのだ。同じことを繰り返してはいけないというメッセージとして伝えていこう。

(編集部より)
本稿は故・古田秀和氏と親しかった某氏から遺稿としていただきました。感謝に堪えません。

新譜 月評

2 0 1 3
4.
A P R I L

管弦楽曲 藤田由々
室内曲 諸君幸生

4月号新譜月評

■金色のワルツ ベルリオーズ「幻想交響曲」から第2楽章、チャイコフスキー「くるみ割り人形」から「花のワルツ」他
安倍三振 指揮 永田町管弦楽団

■R・シュトラウス 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」
キム・ジョンレン指揮 済州フィル

■メシアン「この世の終わりのための四重奏曲」細野合紙 (p) 鳩豆由奇夫 (Vn) 管鳴人 (cl) 野駄目佳彦 (Vc)

諸メディアで大きく取り上げられているディスクである。CDの売り上げが低迷している今日、これほどまでに宣伝されるのは珍しい。実際に売れることはなくとも話題にしておけば何もしないよりはましという戦略もあるうか。借金がま



■金色のワルツ ベルリオーズ
「幻想交響曲」から第2楽章、チャイコフスキー「くるみ割り人形」から「花のワルツ」他

安倍三振 指揮 永田町管弦楽団

すます増えることにならないか心配だ。タイトルはワルツになっているが、三拍子の曲は半分ほどだ。タイトルにより軽いイメージを出したかったのだろう。

本誌でも何度か取り上げてきた「幻想交響曲」からも舞踏会の場面を描いてい

る第二楽章を収録している。永田町交響楽団も新永田町フィルもそうだったが、常任指揮者が変わるとまずドヴォルザークの「新世界」を収めたCDを出す。何か素晴らしい世界が訪れるのだと期待を持たせたいからだ。しかし、その評価が芳しくないといベルリオーズの「幻想交響曲」などを手がけるが、売り上げは上がらず当初の期待は文字通り幻想となる。

かくして、指導力を持つ指揮者不在のまま10年、20年と低迷の時代が続いている。ムードを盛り上げるだけでは解決しない問題を抱えているようだ。

演奏だが、伝統に基づいた安定感のある、悪く言えば鈍重な従来からのスタイルは変わらない。「幻想交響曲」のワルツ

はもっと華やいでもいいと思うのだが、テンポもリズムも重い。やがてやって来る破局の楽章を控えてのことか、あるいは単に安全運転に徹した結果なのだろうか。永田町交響楽団は新陳代謝がないとは言えないが、今後長期間にわたってこのスタイルを聴かされるかもしれないと思うとうんざりしてくる。

最後に収録されているのはレスピーギの交響詩「ローマの松」から「アッピア街道の松」である。収録ホールにはオルガンはないはずだが、あとからシンセサイザー音源でミクシングされたのかもしれない。プラスチックによる作り物の松のようで気に入らない。

出所不明のディスク登場だ。オーケストラには韓国の地名がついているが、実在しない。指揮者の名前はあの北の国の指導者に似ていてジャケットの画像も本人そっくりだが、この演奏会が開かれたことは国営テレビなどで報道されたこと



■ R・シュトラウス 交響詩
「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」

ティル・ジョンレン指揮 済州フィル

はなく、信憑性はきわめてゼロに近い。音源はどこから不法にコピーされたものである疑いも濃い。

ティル・オイレンシュピーゲルとは14世紀の北ドイツの伝説の奇人のことで、R・シュトラウスが多彩な管弦楽の手法

を駆使して書き上げた傑作である。オーケストラも高度な表現力が要求される。実在しない団体と指揮者を相手に責任を持った批評はしかねるが、ともかくこのディスク、面白いのだ。

市場に現れたティルが牛馬を解き放し、大騒ぎを起こす場面は大げさな抑揚とともにアンサンブルの崩壊寸前までのアッチェランドするし、騎士に変装して美しい淑女を口説くが袖にされ怒り全人類への復讐を誓う場面の激しさは並みではない。金管の鋭い上昇音型はロケットのようだ。

全曲に共通しているのは始めは堂々としているが長続きせず貧しい響きに終わってしまうこと。そもそも、最後は処

刑されるストーリーなのだからそれでもいいのかもしれないが、またいつものパターンだと感じるようになると効果はさっぱりだ。

あの北の指導者は万能の天才であることになっているから、オーケストラの指揮も出来、このようなディスクも作った。それを人民に配布するはずだったが、いくらなんでもでっ上げが過ぎるとして報道もされずまま流れ出したのだろうか。あるいは反体制分子がミサイルや核兵器をオモチャのようにもてあそぶ若き指導者に対する皮肉として企画したのか、憶測は尽きない。ただ言えることは、「愉快なはずら」で終わらないことは止めてくれ、それだけだ。

波乱に満ちた新永田町フィルの常任指揮者選びも一段落、最盛期を偲んで行われた演奏会の記録である。この企画に賛同する演奏者を集めるのが大変だったと聞く。なにしろ、右肩下がりの楽団だ。機会あればもっと良い楽団に移ろうと腕



■メシアン「この世の終わりのための四重奏曲」

細野合紙 (p) 鳩豆由奇夫 (Vn)
管鳴人 (cl) 野駄目佳彦 (Vc)

のいい奏者は皆思っている。そこに過去の栄光を忘れられないベテランたちの回顧趣味に付き合っているのは抜けようという時にがんじがらめになる恐れがあるからだ。そんないきさつがあつて、四重奏としては変則的な編成のこの曲が選ばれ

た。

「この世の終わりのための四重奏曲」は第二次大戦で捕虜になったメシアンが収容所での音楽会のために作曲された。ヨハネの黙示録に基づく明日をも知らぬ世界が描かれている。極寒の収容所内でチェロの弦は三本しかなく、ピアノもアップライトで切れていた弦もあったという。

退潮明らかな楽団のささやかな演奏会と戦時下の収容所とは比較できるものではないが、鳩豆、管そして野駄目の各氏には万感迫るものがあつたに違いない。現役時代、それぞれの演奏スタイルは大きく異なっていたが、ひと仕事なし終えて集まるとかつての力みも消え、透明な情感が漂ってくる。

その間にあつてさぞ複雑な心境を抱えていると思われるのが細野。やがては楽団を背負って立つ後継者と言われ、大切に育てられてきた。しかし、彼に迷いはないのだろうか、どんなにおだてられてもだらしのない先輩の言うことについて行くのだろうか。若さゆえもつと冒険もしたいだろうし、新たな境地を見出すこともあるだろう。

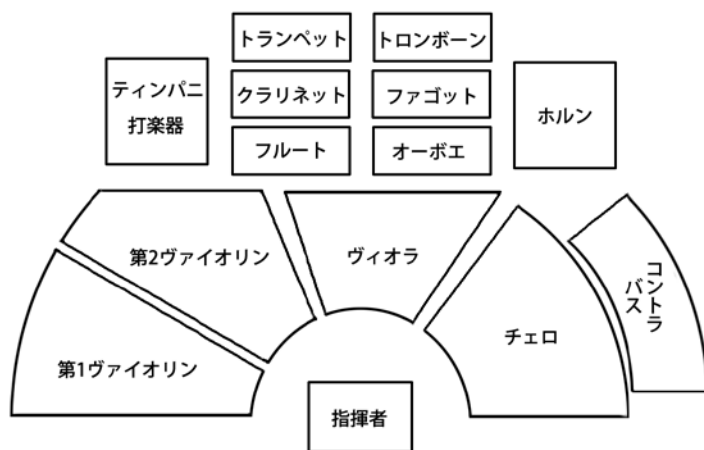
仮に先輩たちを裏切ることがあつたところで、彼なら国民の支持を失わず自らの路線を歩めるだろう。あるいは、彼もまたかつては理想に燃えていた先輩たちが変質していったのと同じ道をたどり変質していくのか、目が離せない。

お知らせ

これまでに発売された新永田町フィルの演奏は少なめの楽器構成で収録したものがいくつかありました。

このほど裁判所からそれらの団体表記は正規の管弦楽団と呼ぶには人数が不足し、室内交響楽団の範疇に入ると判決がありました。

よってその判決の対象となるCDは無効となります。

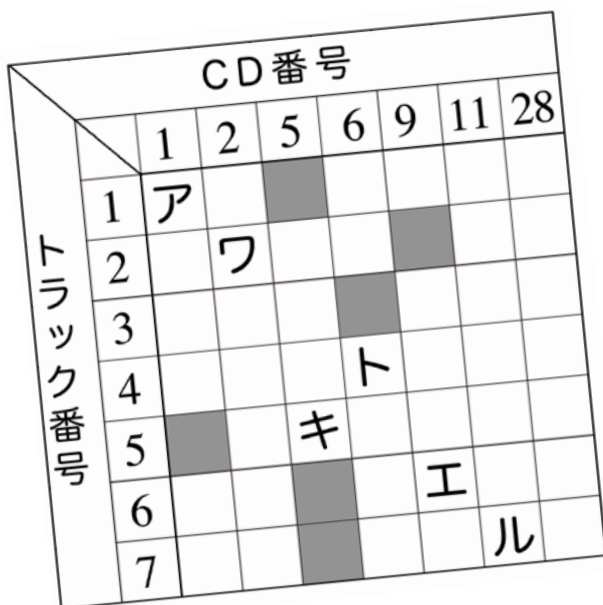


今後は管楽器を0減、弦楽器を5増とします

新団員募集中・新永田町フィルハーモニー

曲当てクイズによるクロスワードパズル

CD 番号とトラック番号で指定される音楽を聴き、
曲名がわかったらその最初の文字をマス目に入れます。



クイズ第1回は、永田町管弦楽団
のCD全集から頭文字がA, B, E, N, O
の作曲家（アルビノーニ、ベートー
ヴェン、エルガー、…と沢山いますね）
の作品から出題曲を選びます。



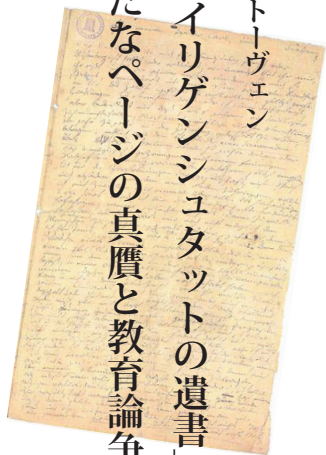
株で儲けたら賞金の宝庫
ミックスボックスをどうぞ



ベートーヴェン

「ハイリゲンシュタットの遺書」

新たなページの真贋と教育論争



ベートーヴェンの生地ボンで真贋論争が巻き起こっている。耳の病に絶望して書いたといわれている「ハイリゲンシュタットの遺書」に未発見のページが見つかったというのだ。

これまで「遺書」と呼ばれているのは弟のカールとヨハンにあてたもので、内容は告別の気持ちよりむしろ芸術の力で困難を乗り越えようとする意志がみなぎっていて、

死よりも新たな出発を思わせる。新たに発見されたページも同様な基調で書かれていて、重複する文章も多いが、より不特定多数の読者に向けられているように感じられる。以下に要旨を紹介する。

おお、人々よ。君たちは私のことを片意地な気違いじみた、または人嫌いと思い、あるいはそう噂している。私に対してそれは間違いもはなはだしい！君たちはそう見える秘密の理由を知らないのだ！私の心と精神は、少年時代から善良な優しい感情の味方だった。偉大な行為をやり遂げようとさえいつも私は心がけていた。ところが、六年来私は治る望みを年々に裏切られて、

とうとう慢性のものであると認めざるを得なくなった。その恐ろしい状態がどんなものであるか、それだけでいいから考えてみてくれ。

君たちの仲間に入りたいにもかかわらず、それを避けている私を許してくれ。人々と交際し、デリケートな会話をし、意見を吐きあつて楽しむことは私には出来ない。私の状態が人々の注意をひくところへ身をさらすのが怖くて、私は非常に悩むのだ。

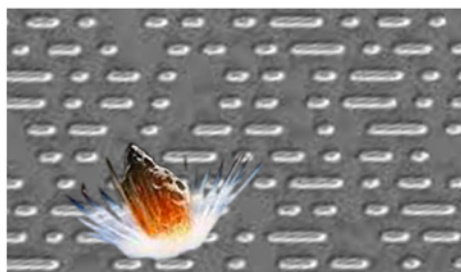
さらに私を苦しめるのは、私の状態を知っているがらまるで面倒な輩に近づくのを避けたいように距離をとりつつ冷ややかな態度をとる連中がいることだ。そして、耳が悪くなったのは父親からピアノを練習せよと殴られたからだというのだ。私の病の原

因を私の才能を見いだし音楽の手ほどきをしてくれた父のせいにするとはなんということだろうか！父には意志の弱い所があったゆえ飲んだくれた。しかし、それを自覚していたからこそ、私に期待をかけたのだ。暴力をふるうことなど断じてなかったのだ。

おお、人々よ。もし君たちがいつかこれを読んだならば、父について君たちが間違っていたことを了解したまえ。そして父は私を芸術家の列に入れてもらおうとして、最善を尽くしたことを知って欲しい。ああ、私には自分に課せられた全ての物を完成させてしまふまではこの世を去ることは出来ないのだ。

教育には暴力はいらないのである。

粒状物質 PM2.5 はこんなに音に悪い



1.6ミクロン



C Dのピット列に付くと
データの再生を妨害します

C Dをクリーニング、さらにお部屋の空気も清浄に。
澄み切った気分で音楽を聴きましょう。
空気清浄器付きC Dプレーヤー新発売！



砂漠地帯で培った技術

タクラマカン音響

これからは環境に優しいディスク

オントモ燃処理株式会社では、メタンを主原料とする自然界で容易に分解され、しかも通常の使用に耐える強度を持つ素材を開発、在来の石油由来の原料を用いたディスクとの交換を始めました。

青がメタン・
埋蔵予測域
・ハイドレート



メタンはバイオ関連の素材から得られるガスを用い、先々期待されている海中のメタン・ハイドレートからのガスは使いません。シェールガスと同様、メタン・ハイドレートからのガス採掘は地震を誘発する恐れがあるからです。

生分解性CD引換券

不要なCDを5枚を本券に添えてお持ちの方から抽選で進呈

オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2013.4.1

レコード軽術常備店



クラシック音楽を聴きながら

語らいと酒悦のひとつき

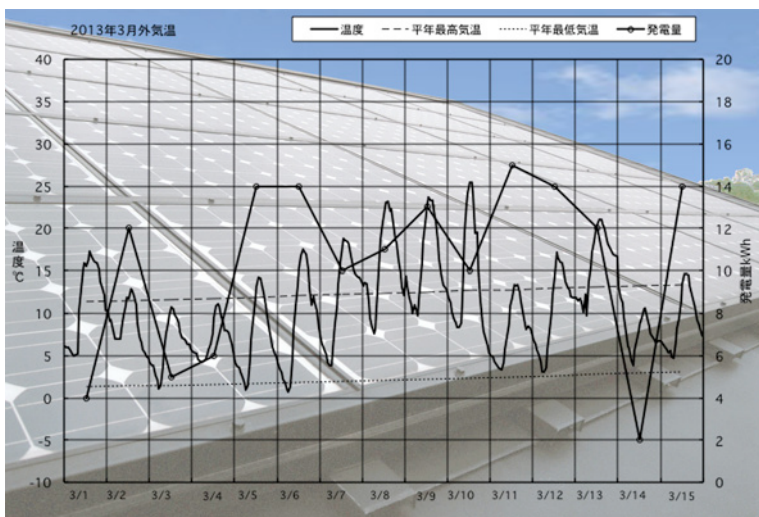
〒167-0054 杉並区松庵 3-38-3

ニューダイヤハイムB 1 南号

☎ 03-3334-4161 (日曜休み)

再生可能エネルギーを推進しましょう

本誌は太陽のエネルギーで印刷されています



太陽光発電パネル設置は 97 年

編集後記

今号の制作に取りかかろうとして気がついたのはもう 50 号になったこと。楽しく出来た号ばかりではない（今号もそうか？）のに、続けられたのは読者の方々の声援です。これからも質が落ちないようにがんばります。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを
http://members2.jcom.home.ne.jp/s_yanagawa/
で見ることができます。

レコード軽術 '13 年春号（通巻第 50 号）

2013.4.1 第 1 刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町 539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

s_yanagawa@jcom.home.ne.jp

印刷・製本 家内工業

